

芸術鑑賞によるイメージ喚起がダンスの創作過程に与える影響

柴田 瞳 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 森川 みえこ

キーワード：芸術鑑賞 イメージ能力 イメージ喚起 書く作業

1. 緒言

現代の子どもたちは、インターネットを通じたコミュニケーションが主流となり、他者との直接的なコミュニケーションの機会が減少している。

平成 24 年に中学校において、武道・ダンスが必修化された。ダンスは集団による課題解決学習を主体とし、コミュニケーション能力や思考力の育成が目的とされている。3つの構成に分類され、創作ダンスは、イメージをとらえた表現や踊りを通し、仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する表現運動である。特に、舞踊制作の過程で、頭の中でイメージを沸かすことを舞踊的イメージとよぶ。舞踊的イメージは、身体運動と結びつけるために、抽象的な事象でも、具体的なものとしていくことが身体表現につながる。そこで本研究では、創作ダンスにおけるイメージ能力向上を目指し、教材として絵画に着目し、絵画鑑賞が創作過程におけるイメージ喚起に対してどのような影響を及ぼすのかを明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

研究対象は、中学校保健体育科の教員を志す B 大学学生 22 名(男性 11 人,女性 11 人)とした。

研究方法は、質問紙調査を実施した。次にパブロ・ピカソの「花飾りをつけたマヤとおもちの船」の絵画をスクリーンに映し出し、鑑賞しながらイメージを箇条書きで書き出す、時間は 5 分間とした。最後に質問紙調査を行い、絵画鑑賞によるイメージ喚起について感想を書く。

3. 結果と考察

創作ダンスの創作過程に教材として絵画を用いてイメージ喚起を行うと、絵画を観ることでイメージが沸きやすく、あらゆるところに視点をあてて考えるため、イメージをより豊富に沸かすことができるという結果に至った。ダンスは身体表現による芸術である。身体で表現するためには、イメージが必要であり、イメージを沸かす能力(イメージ能力)が高いことが大切である。イメージ能力を高めるために芸術(絵画)鑑賞によるイメージ喚起のトレーニングが有効であると考えられる。

4. まとめ

本研究では、芸術鑑賞が創作過程におけるイメージ喚起にどのような影響を及ぼすのかを目的とし、検証を行った。その結果、芸術鑑賞によるイメージ喚起は豊富なイメージを沸かすことにつながり、創作ダンスにおける作品制作過程で重要な教材になると考えられる。

5. 引用・参考文献

「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために」～「話し合う・創る・表現する」ワークショップへの取組～平成 23 年 8 月 29 日コミュニケーション教育推進会議 審議経過報告

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/08/_icsFiles/afieldfile/2011/08/30/1310607_2.pdf(2014/11/20)

邦 正美(1986)舞踊創作と舞踊演出, 論創社, 東京

須藤智恵,秋葉尋子(1983)現代の教育舞踊明治図書出版社, 東京

文部省(1998)中学校学習指導要領,1-6,71-79, 大蔵省印刷局,東京大蔵省印刷局,東京